

様式第1号

兵庫県福祉サービス第三者評価の結果

①第三者評価機関名

財団法人大阪保育運動センター第三者評価事業室

②施設・事業所情報

名称：ゆりかご保育園		種別：第2種 保育事業		
代表者氏名：鳴神 志保子		定員（利用人数）：60名（73名）		
所在地：兵庫県尼崎市稲葉元町3丁目20-12				
TEL (06) 6418-3815		ホームページ：Yurikagohoikuen.net		
【施設・事業所の概要】				
開設年月日：1980年4月1日				
経営法人・設置主体（法人名）：社会福祉法人 ゆりかご福祉会				
職員数	常勤職員：	14名	非常勤職員：	14名
専門職員	(専門職の名称) 保育士	11名		
	調理	1名		
	栄養士	1名		
施設・設備の概要	(居室数)		(設備等)	
	乳児室：ほふく室 2室 保育室：遊戯室 4室 沐浴室・調乳室・調理室・医務室・ 幼児用トイレ5室		プール・冷暖房・床暖房・園庭（借地） 中庭	

③理念・基本方針

理念：ゆりかご保育園は、その前身である無認可共同保育所の良き伝統を生かし、いつも父母と職員と地域が協力・共同しあって、子ども達が心身ともに健やかに成長・発達するように努力します。

職員は、つねに愛情深く子ども達と接し、保育技術の習得、資質の向上に努めます。子どもたちをとりまく社会情勢にも目を向け、児童福祉の拡充並びに地域における子育て支援なども積極的に進めます。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ①尼崎の中では、園庭が広く、室内外どちらとも裸足、薄着で一日を過ごしています。二歳以上児は毎月遠足に出かけ、三歳以上児は、山登りの経験を出来るようにしています。
- ②食べものへのこだわりがあり、旬を大切にし、無添加、低農薬の物を使っています。昼食は一汁二菜、おやつも手作りしています。食物アレルギーのある子へは、コピー食を作り、「みんな一緒」を大事にしています。
- ③開園当初より、バザーをしており、地域のみなさんが買い物に来られることをはじめ、地域の親子を園庭に招いたり地域開放をしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年 11月 7日 (契約日) ~ 平成30年 3月 17日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	1回 (平成 29年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

1968年9月、「産休明けから保育する乳児保育所」を探す母親たちが、公立保育所での0歳児保育の要求を尼崎市に提出する一方で、母親たちは稲葉荘を仮の園舎に「ゆりかご保育所」を自力で始めました。1980年社会福祉法人を創設し、「ゆりかご保育園」を開園しました。保護者と地域と職員が一体となって作り上げて来たその歴史が今も脈々と引き継がれています。保護者会活動も保護者の交流やアンケートを実施し、バザーに積極的に協力するなど活発に行われています。保護者からは給食、保育内容に対しての強い信頼があります。園舎の隣に工場やマンションもありますが、広い園庭で子どもたちはのびのびと遊んでいます。

職員は経験豊かな保育士と新人保育士とがともに学び合って保育を実践しています。この保育園を卒園して就職した若い職員もいて、歴史の深さを感じさせられます。また、短時間雇用の職員もしっかりと役割を担い保育を支えています。

地域要求も積極的に受け止め、自治会や医療機関・社協との連携も図っています。最近では、法人が主になって、ボランティアによる「子ども食堂」も実施しています。地域から信頼され、地域に根ざした貴重な保育園です。

◇改善を求められる点

開園から年数がたった建物で、一部増設などの改築は行われているものの、今後大型補修や建て替えの時期がくると思われます。現代の子どもの状況や保護者の状況にあった、施設整備も求められます。心にさまざまな課題を抱えている子どもや、家庭支援の必要な子どもや子育てに悩む保護者も増えている中で、子どもがほっこりできるスペースや、保護者が気兼ねなく心をひらいて相談できる場所が求められます。今後はこれまで以上に、子どもや保護者、地域の子育て状況を分析し、理念に基づく保育を展開できる保育環境を描き、現在の施設を点検し、実行性のある中・長期計画を作ることが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

長年大切にしてきた保育内容に対し、保護者から信頼を寄せてもらっていることが、はっきりとわかってよかったです。これからも、保護者の要求を反映させることにも気を配り、今より良い保育を提供していけるように、職員と一緒に考え実践していきたいと思います。

2018年度、大規模な改修を行う予定です。今回の第三者評価で、指摘された点も改修したいと考えています。

⑧各評価項目に係る第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

(別紙)

第三者評価結果

※すべての評価細目について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・b・c
<p>理念を明文化し、保育課程、入園のしおり、パンフレットに記載しています。保護者に対しては、入園前の説明で一人一人に丁寧に説明しており、保護者も良く理解しています。新入職員に対しては、入職時に一人一人に説明しています。保育課程に基づいて保育計画を立て保育実践しています。</p>		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・b・c
<p>〈コメント〉共同保育所時代から地域の保育要求をしっかりと受け止め保育をしてきました。現在も 尼崎市役所担当課等と連携し、要求の把握、分析をしながら事業計画を立てています。事務局会議を毎月定例で開催し、事業内容を分析し理事会や職員に反映しています。</p>		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・b・c
<p>〈コメント〉 経営状況、保育内容、職員体制等を事務局会議にて分析し、課題を明確にして理事会に提案しています。しかし、職員の認識が保育所職員の範囲にとどまっています。今後は、法人職員として法人の事業計画や財政計画を理解し、経営に参加していくことを望みます。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・c
<p>〈コメント〉 中・長期計画案はありますが、作成半ばで不十分な状態です。例えば長年の願いとして、園庭の買い取りの希望がありますが、具体的な計画がないために買い取りが出来ていません。中・長期計画に園庭の確保を位置づけ、職員や保護者が見通しを持つことができる内容にする事が求められます。</p>		

5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a (b) c
<p>〈コメント〉</p> <p>単年度の実行可能で具体的な事業計画を立てていますが、中・長期計画が不完全なため、中長期計画に基づく単年度計画にはなっていません。今後の課題です。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a (b) c
<p>〈コメント〉</p> <p>年間総括、次年度準備等で、事業計画の大まかな内容を説明し、職員の意見を反映するようにしています。今後は職員会議等でのより深い議論や分析を期待します。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a (b) c
<p>〈コメント〉</p> <p>保護者に対しては、全体懇談会を開き、年度の事業計画を説明しています。今年度は改修工事計画について説明を行い、完成後見学会をして周知しました。しかし、事業計画全体について一層周知することが望まれます。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a (b) c
<p>〈コメント〉</p> <p>保育課程に基づき、クラスごとの、年間計画、月案・週案を立てています。また、各部会の年間計画も立てています。その計画に基づいて保育実践をし、中間総括・年度末総括を行い、次年度の課題を明確にしています。しかし、当園の「運営規程」の18条に「園の自己評価」を明記していますが行われていません。規程にそって自己評価を行い、さらなる質の向上を図る必要があります。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a (b) c
<p>〈コメント〉</p> <p>中間総括・年間総括からの課題は導き出されていますが、園としての自己評価ができていないので、評価結果に基づく課題の克服が不十分です。「運営規程」に基づく園の自己評価を期待します。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<コメント> 「運営規定」の中に明文化しています。職員分掌表も作成し周知しています。主任との連携もとれています。		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
<コメント> 就業規則を基本に周知しています。その他の必要な法令は、職員が見ることができるよう配慮しています		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<コメント> 日々保育日誌に目を通し、保育の状況把握に努めています。職員会議や代表者会議の中でも指導力を発揮しています。延長保育の時間、いつもは利用していない子どもにその日のおやつ提供して大丈夫か聞かれ、きちんと書類確認して答えている姿が見られました。		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<コメント> 毎月開かれている理事会事務局で、経営報告や改善について話し合っています。主任とも連携しながら、残業を減らす工夫等検討しています。		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・b・c
<コメント> 様々な就職フェア（法人保育園主催や大学主催等）に積極的にでかけ、人材確保の努力をしています。求職者にわかりやすい資料作りにも取り組んでいます。しかし、当面の欠員補充の範囲で計画的とは言えません。		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・b・c
<コメント> 年齢や経験を考慮した人事管理の努力は見られます。「期待する職員像」の周知と職員が自ら将来の姿をえがくことができる総合的な仕組みづくりは、今後に期待します。		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・b・c
<コメント> 園長自身が有給の管理を行い、有給を取得しやすい配慮をしています。子育てしながら働いている職員もおり、ワーク・ライフ・バランスについての配慮も努力しています。		

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a b・c
<コメント> 年度初めに今年度の抱負を一人一人みんなの前で話して、個人目標を記入しています。研修の検討は、園長と主任でしています。中間期に、理事長・理事・園長で個別面談を行います。年度末には個々の職員が、反省や次年度の担任希望など記入しています。		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a b・c
<コメント> 毎年事業計画と一緒に研修計画を立てています。研修報告は必要に応じて職員会議で共有化の機会を持っています。		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a b・c
<コメント> クラス担任を配慮して組み、日々の保育を通してOJTを実施しています。園内研え修、外部研修と職種別や習熟度に合わせて研修参加を勧めています。		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a b c
<コメント> 実習生の受け入れマニュアルは、これまでの実績をまとめて文書化しています。実習生が入る前には、個人情報等についての周知・確認が求められます。		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a b・c
<コメント> ホームページで広く公表の努力をしています。子育て新聞の発行やゆりかご会ニュースの年5回の発行など、情報提供に力を入れています。子育て新聞は170枚ほどを10～30枚ずつ保健センター等8か所に置かせてもらっています。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a b c
<コメント> 「経理規定」はありますが、今後は、外部監査の活用や公認会計士等による指導を受け、経営改善の実施を期待します。		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a b・c
<コメント> 「入園のしおり」や「子育て新聞」で様々な情報を伝える努力をし交流をしています。また、生協クリニックでの「待合保育・子育て相談」は当園独自の取り組みです。		

24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○ a・b・c
<コメント> マニュアルも整備し学校教育への協力として中学生や高校生の受け入れをしています。子ども食堂は、調理師免許を持つ理事がボランティアで担当しています。		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	○ a・b・c
<コメント> 「保育安全マニュアル」の中にも詳細な明記をし、職員への周知もしています。西宮こども家庭センター等関係機関との連絡も取れるようになっていきます。地域子育て支援会議等にも参加しネットワークによる支援も受けることができます。		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	○ a・b・c
<コメント> 登録制の親子で遊ぼう「はだしっこ」、「公園保育」、「園庭開放」、「フリースペースの開放」、小児科での「待合保育と子育て相談」餅つきにグループホームと特養の人の招待など活発な活動をしています。		
27	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	○ a・b・c
<コメント> 法人が借りた家で、週1回、定年退職した保育士2名が常駐し、「フリースペースの開放」をして子育て支援をしています。また、第3金曜日には夕方5:00から「子ども食堂」をしています。地域のニーズに応えた積極的な活動です。		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている	○ a・b・c
<コメント> 子どもを尊重した保育は、保育理念にも掲げており、職員は日々保育の基本にしています。市内で連携している「五園研修」で人権の研修も受けています。保護者には各クラス懇談会で伝えています。		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	○ a・b・c
<コメント> 就業規則や保育安全マニュアルに明記し、職員に周知しています。トイレの目隠しやプールの時よしずを使うなど配慮をしています。		

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・b・c
〈コメント〉わかりやすいパンフレットや写真をたくさん使ったホームページで必要な情報の提供に努力しています。		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
〈コメント〉「入園のしおり」に明記している内容については、父母の会役員に事前に説明し意見を聞いた上で、全体懇談会やクラス懇談会で説明しています。		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
〈コメント〉卒園した小学校6年生までは、夕涼み会、運動会の案内をしています。転園の際のひきつぎ文書は作成していますが、周知及び活用は今後に期待します。		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
〈コメント〉現状は、父母の会がとるアンケートに園が答える形をとっていますが、今後は園が主体的にアンケートを取ることも必要ではないでしょうか。検討を期待します。		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
〈コメント〉苦情解決の仕組みはあります。当評価機関が実施した利用者アンケートでは、苦情・意見に対して園の対応に不満足の声がありました。解決について工夫を求めます。		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・b・c
〈コメント〉 相談スペースの確保については、2018年3月16日の改修工事の中で、相談室が確保されましたが、今後の活用を期待します。		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
〈コメント〉「保育安全マニュアルの中に「意見・要望・苦情への対応」として明記しています。苦情や意見があったときは組織的に検討し、迅速な対応の努力をしています。		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
〈コメント〉 保育安全マニュアルに基づき、事故報告書も生かし、再発防止に努めています。雲梯のことで非常滑り台(2歳児を2Fで保育する場合)について安全面での検討を望みます。		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
〈コメント〉 保護者が不安感を持たないように、職員が健康係を決めて努力しています。体調の悪い子どもの安静スペースについては、2018年3月16日の改修工事事務所の中に確保がされましたので、今後の活用を期待します。		

39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に 行っている。	a・ b ・c
<p>〈コメント〉 マンションの自治会と一緒に年2回避難訓練をしています。地震の時は、近くにある関西労災病院の女子寮が避難場所になります。備蓄も用意しています。2歳児の非常滑り台については、当面は安全に配慮した手だてを確立すると同時に、中長期計画に基づく大規模改修において改善することを期待します。</p>		
40	Ⅲ-1-(5)-④ 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらに その対応方法については、全職員にも周知している。	a ・b・c
<p>〈コメント〉「保育安全マニュアル」に食中毒の時の対応を明記しており、全職員に周知しています。毎年年度初めに職員への周知をしていますが、必要なら改定もしています。</p>		
41	Ⅲ-1-(5)-⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全 職員に周知している。	a・ b ・c
<p>〈コメント〉 不審者対応マニュアルは「保育安全マニュアル」の中にあり、避難訓練もしていますが、警察との連携や見直しなど今後期待します。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
42	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・b・c
<コメント> 「保育安全マニュアル」の中に、登降園時の対応も含む「延長保育マニュアル」「防災マニュアル」「アレルギー対応マニュアル」等々標準的な実施方法を文書化しています。それに基づき保育をしています。		
43	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<コメント>保護者からは、毎日の日誌の保護者記入欄やクラス懇談会で意見を聞いています。毎月の職員会議、中間総括、年度末総括などで、保護者の意見を反映しながら、職員は見直しの機会があります。		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
44	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a・b・c
<コメント> アセスメント手法が決まっていて、それに基づいて指導計画を策定しています。保育課程を土台にしつつ策定しています。		
45	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<コメント> 毎月の保育計画は乳児会議、幼児会議で検討しています。年間計画、中間総括、年度末総括は、職員会議で評価・見直しをしています。		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
46	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・b・c
<コメント> 保育園が定めた様式に基づいて記録をしています。記録の方法についての職員間の見直しや共有の機会もあります。		
47	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<コメント> 個人情報保護の徹底に向けて、記録の管理の工夫が必要です。検討に期待します。		

評価対象A 実施する福祉サービスの内容

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・b・c
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・b・c
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・b・c
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・b・c
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・b・c
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・b・c
A-1-(3) 健康管理		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・b・c
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a・b・c
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	a・b・c
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・b・c
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・b・c

特記事項

<p>◆保育課程の編成</p> <p>① 児童憲章、・児童福祉法・保育指針の趣旨に立ち法人理念・保育園の方針を理事会で承認しています。保育課程についても、法人理念を基礎に前年の総括を元に全職員で見直し、年度初めの会議にて全職員で編成しています。</p> <p>◆環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開</p> <p>②年間保育計画、月案および各個別計画は児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成しており、それに基づいての保育を実施しています。保育室・ホールはすべて床暖房にしており、子どもたちは身体作りの一環として薄着・裸足で過ごしています。1階が大きなホールになっていますが、大きな木製の机やロールマットが積まれていて雑然とした印象を受けました。それらを整理したうえで、ホールの片隅を利用するなどして子どもがくつろぎ、落ち着ける場所の設定などの工夫を期待します。</p> <p>③各クラスの規模が小さく、家庭的な雰囲気の中で保育士との関係を軸にしながら、クラスや、異年齢の友だちと遊び、生活をしています。</p> <p>④子どもたちがそれぞれの年齢に応じて、保育士に見守ってもらいながら主体的に生活習慣を身に付けようとしています。しかし建物の構造上全体にトイレの数が少なく、0歳児は室内にオマルを置いての排泄が主となっています。排泄指導や衛生面、室内の環境づくりの観点からも、今後の中長期計画に基づき、大規模改修の中でのトイレ増設等の検討に期待します。</p> <p>⑤小規模の保育園ですが、その利点からクラスの友だち同士の関係だけでなく、異年齢間のかかわりも強いです。園庭での遊びも保育士がリードして遊ぶというより、家庭でお兄ちゃんお姉ちゃんと遊んでいる雰囲気があります。リズム遊びやごっこ遊びも年下の子が年上のクラスの遊びに刺激を受けて楽しんで遊んでいました。</p> <p>⑥⑦乳児クラス(0歳児・1歳児・2歳児)は、睡眠時はチェックシートを用いて、SIDS事故の防止に努めています。0歳児の散歩は月齢に応じて散歩車に乗る子どもや、保育士に励まされながら散歩車を押して歩く子どもと、個々の気持ちや主体性に配慮をしています。毎日の連絡帳を通して保護者と、子どもの情報を共有しています。幼児クラスとは合同リズムに参加したり、お手伝いに来てもらって交流もしています。</p> <p>⑧ 幼児クラス(3歳児、4歳児、5歳児)は積極的にリズム遊びや遠足、散歩に出かけています。地域の施設を有効に使いながら、近隣の行事にも参加しています。3歳児は2階に部屋があり、ままごとコーナーや手作りおもちゃなどが遊びやすいような環境に設定できています。運動会の後でもあり、年長に対してのあこがれが強く、4歳児はしきりに走り縄跳びにチャレンジしています。5歳児の話し合いの場面では、子どもたちが自分の思いを出しながら話し合いを進め、担任がさりげなく交通整理をしていました。</p> <p>⑨巡回発達相談を年4回受けています。障害を持つ子どもには、数年来同じパート保育士を配置し、担任も持ち上がるなどの配慮をしており、子どもは大人に依拠しながら安定して過ごしています。</p> <p>⑩長時間保育では、子どもが安定して生活できるように小集団で過ごしています。朝の保育で、保育士が一人で対応している時間帯がありました。業者や保護者との対応、電話連絡もあります。緊急な事態に備え複数での対応は急務です。6時半以降のおやつが干菓子でしたが、内容の充実について検討を望みます。</p> <p>◆健康管理</p> <p>⑫安全マニュアルに基づき、子どもの健康状態の把握に努めています。保健年間計画を作成し、身体づくり、病気予防など保育計画を基に取り組んでいます。</p> <p>⑬健康診断、歯科検診を定期的実施し、結果を保護者に連絡しています。</p> <p>⑭食物アレルギー児への対応は、マニュアルに従いながら保護者・担任・給食室との3者懇談を実施し、除去でなく代替え食にこだわるなどの努力をしています。また、食器の色を変えるなど誤食の無いように工夫をしていますが、より誤食が起きないようにするために、給食時のテーブルの配置や子どもの様子が見やすい環境づくりなど一層の工夫を望みます。</p>

<p>◆食事</p> <p>⑮食育については、野菜の栽培、収穫からクッキングまでの取組をしています。調理室とホールが対面しており、子どもたちは視覚、嗅覚で食を身近に感じています。給食は、2歳児から5歳児までがホールで食べていますが、子ども達の声が響いていました。2歳児にとっては食事指導を受けやすい環境づくりや、保育士や友だちと落ち着いた雰囲気の中で食べることに主眼をおいて、今後は部屋で食べることの検討を望みます。また、保育士の食事は、子どもとは別に交替で取るようにしていますが、行事など年に数度だけでも子どもとの共感を楽しみながら一緒に食べる機会を設けることについて検討を望みます。</p> <p>⑯残食結果や検食簿の記録、日誌を分析し給食会議で討議し、献立に反映しています。当評価機関の実施した保護者アンケートで、食への取り組みに対しての保護者の満足度はかなり高いものでした。5歳児は給食の下準備(米とぎなど)のお手伝いを楽しんでいます。収穫した果実で梅干しや干し柿づくりもしていて、給食のときに食べています。</p>
--

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a • b • c
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a • b • c
A⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a • b • c

特記事項

<p>⑰乳児は連絡帳で個々の体調や生活リズムの把握を行っています。幼児は保育の様子をコピーした保育日誌型連絡ノートでその日の様子を伝えています。</p> <p>⑱子育て支援を積極的に進めています。当評価機関が実施したアンケートには、意見や意向が伝えにくいといった声がいくつかありました。より気軽に相談できるような場所や雰囲気づくりに期待します。(3月16日の改修工事の中で相談スペースが確保されました。今後の活用に期待します)</p> <p>⑲虐待については、安全マニュアルに沿って子どもの観察を心掛けています。また気になる事例があれば子ども家庭相談室に相談、報告しています。</p>
--

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り (保育士等の自己評価)		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り (自己評価) を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a • b • c

特記事項

<p>◆保育の質の向上</p> <p>⑳職員会議や乳・幼児会議等で日常の保育や行事ごとの振り返りをしています。しかし、毎日の振り返りにつながる保育日誌が、保護者との連絡ノートの兼用公開日誌となっています。保育日誌と公開日誌を別にするか、振り返り項目を別に作成するなどして日々の振り返りを記載することが重要です。年度初めと年度末にテーマに沿ったレポートの提出を基に、園長による個人面談を実施しています。今後は職員が自身の課題や到達点を客観的に判断できるようなチェック項目を設けると</p>

ともに、自己評価が個人の向上だけでなく園の向上につながるような仕組みを構築することを期待します。